

ふるさと通信

HuRP通信
2012年

5月号 (第69号)

<http://www.hurp.info>



福島第一原発事故

現地調査報告

——事故から1年1ヶ月後の汚染と
被害の状況

石川県にお住まいの会員、児玉一八さん
より、レポートしていただきました。

浪江町水境で空間線量率を測定。
6~10 μ Sv/時を記録

福島県郡山市で約 $1\mu\text{Sv}/\text{時}$ (金沢の約20倍)だった空間放射線量率は、東北自動車道を北上するに従ってじりじりと上昇し、二本松市では $1.5\mu\text{Sv}/\text{時}$ に。ここで高速道路を下りて西に向かい、川俣町に入ると $3\mu\text{Sv}/\text{時}$ を超えました。浪江町の標識を超えると放射線測定器は $10\mu\text{Sv}/\text{時}$ を表示し、ついには $17\mu\text{Sv}/\text{時}$ に。車を降りると、目の前に「赤宇木」の看板が立っていました。

4台の測定器を道の横にたまった落ち葉の上にかざすと、3台のシンチレーションサーベイメータは振り切れて測定不能に。 $300\mu\text{Sv}/\text{時}$ まで測れるGMサーベイメータの針は、1m高さで $35\mu\text{Sv}/\text{時}$ 、15cmでは $80\mu\text{Sv}/\text{時}$ を指しました。金沢の約1000倍の放射線量率です。一同は声を失いました。



福島第一原発事故から1年1カ月が経過した

4月10~12日、私は石川県の住民運動の「現地調査団」に参加し、福島県の現地調査に行ってきました。4月10日午後3時過ぎにいわき市に到着。福島県で40年以上にわたって住民運動を続けてきた伊東達也さん(原発問題福島県民連絡会副代表)、渡辺博之・いわき市議から、福島の実況について話をうかがいました。

伊東さんは、「福島第一原発から60km圏の福島・二本松・郡山・伊達の各市は、全体としていわき市より放射線量が高い。若いおかあさんたちは逃げるかどうかでじりじりしており、1年経ってもパニックが続いています」と話します。

汚染の影響は、農業や漁業、教育や福祉、観光など様々な分野で現れています。福島第一原発から約90kmの会津若松市は修学旅行のメッカでしたが、原発事故で訪れる人が95%も減ってしまいました。90km離れても、影響は深

刻です。

伊東さんは、「汚染の濃淡はあっても、福島県で放射性物質が降っていないところはありません。放射能汚染は、県外に避難する人とならない人など、住民に分断と対立をもたらしました。分断と対立は、親子にも及んでいます」と話します。



政府は4月1日、避難区域の設定を見直し、①帰還困難区域（年50mSv以上）、②居住制限区域（年20～50mSv程度）③避難指示解除準備区域（年20mSv未満）—に再編しました。この中で、長期にわたって戻れない地域があることを認めました。避難住民へのアンケートでは、30%近くの人が「戻らない」と答えています。

伊東さんは、「もう、元には戻らない。『復旧』とは何か、問われているのではないのでしょうか。『作り直し』を考えた方がいいのではないか。これが『復興』ではないかと思えます」と話します。

福島県は、事故当時0～18歳の子ども36万人について、甲状腺検査を生涯続けることを決めています。それほど長く、健康への不安は消えません。

伊東さんは、「加害者が被害者の声をきかずに、勝手に『賠償額』を決めるという重大な問題もおこっています。人権と生活を保障させることが大事であり、そのための法律をつくらせる必要があります」と話されました。



福島県の沿岸は160kmあり、豊かな漁場が広がっていました。

渡辺さんは、「津波の後に港を見てまわり、予想以上に漁船が残っていたことに涙が出るほどうれしかった。ところが、命がけで守った漁船が活用されず、港に係留されています。原発事故は漁師の誇りまで奪ってしまいました」と話します。



20 μ Sv/時以上で振り切れた測定器（浪江町赤宇木）

昨年8月29日、宮城県沖約900kmで獲ったカツオ18トンが福島県小名浜港に水揚げされました。小名浜に活気を取り戻したい、とにかく足を踏み出したいと水揚げされたものです。ところが築地市場でついた値段は、1kg当たりたった百円でした。

渡辺さんは、「漁業者や仲買人は大きな不安をかかえ、再開をあきらめる人も出てきています。漁業関係者の意欲を維持していくことが最大の課題です。きめ細やかな放射能検査で見通しを立てること、行政としても漁業を何としても再開させるという強いメッセージを送り支援すること、さらに、消費者もそれを応援することが求められています」と話されました。



4月11日は午前9時にいわき駅前を出発し、伊東さんの説明を聞きながら国道6号線を北上しました。

20km圏の広野町は昨年9月30日に「緊急時避難準備区域」を解除され、翌日から戻ってもよくなりましたが、半年を経た今も、約5千人の町民のうち、戻ってきた人は250人ほどです。

11日の午後には、浪江町と飯舘村を訪れま

した。田んぼや畑は一年間耕作されないまま
で荒れており、あたりは何の音もせず、暗く
なってきたのに家の光は見えません。



福島県での3日間の調査で、目に見えない放
射能汚染がいかにかっかいなものかを目の当
たりにしました。風景は一見、私たちの住む
ところと何ら変わりがないのですが、放射線
測定器の数値は高いままでした。

志賀原発や若狭の原発群で苛酷事故が起き
れば、石川でも同じことが起こります。政府
や電力会社は、苛酷事故への備えもないのに
原発を再稼働しようと躍起ですが、絶対に許
されません。調査結果を多くの人々に知らせ、
原発からの撤退、再生可能エネルギーへの転
換の運動を大きく広げたいと思います。

(児玉一八)

新刊◆案内



民主主義を、ソウルで学ぶ

ソウルを旅したことのある方は多いと
と思いますが、今度は、ひと味違ったスポ
ットに足を運んでみませんか。それは、
「延世大学 金大中図書館」です。

このブックレットは、金大中図書館の
紹介であると同時に、私たちがそこで何
を学ぶことができるのか、また、図書館
をより理解するため知っておきたいこ
とがコンパクトにまとめられています。

この書籍を手にも、実際に金大中図書館
に行ってみませんか。

▼もくじ

はしがき——「金大中図書館」と出会って

人間金大中を語る……韓 勝 憲

I 金大中図書館とは

II 金大中図書館ってどんなところ?——写真で見る金大中図書館

III 金大中図書館をより理解するために——金大中元大統領を知る

1 大統領になるまでの苦難のあゆみ／2 「太陽政策」を掲げ、南北の平和と統一
に尽力、ノーベル平和賞受賞／3 日本との平和的友好関係の構築に尽力／4 朝
鮮半島の平和実現への道と「太陽政策」

IV 朝鮮半島の2つの国、そして私たちの国

はじめに／1 日本による朝鮮半島の植民地化、そして日本の敗戦と2つの国家／
2 韓国戦争(朝鮮戦争)／3 韓国戦争(朝鮮戦争)にかかわった日本

V 金大中図書館訪問記



「金大中図書館に行ってみよう」2012年12月、HuRP出版、定価：1,000円

地図なども掲載。スタディツアーの資料としても最適です

(まとめ買いの際は、ご相談ください)。

♪ オノQの今月の一曲 ♪

“Peace on Earth”

(John Coltrane, 1966)



ジョン・コルトレーン

・巨人の祈り

ジョン・コルトレーンはジャズという音楽の歴史そのものといってよいほど、後世まで影響を与え続けている、ジャズ界最大のカリスマのひとりです。

ジャズという音楽は、アメリカの黒人達の労働歌であったブルースから派生し、ニューオーリンズ、ビ・バップ、ハードバップ、モードジャズ、フリージャズハードバップ、モードジャズ、フリージャズといったスタイルへと発展してきたといわれています。コルトレーンイルへと発展してきたといわれています。コルトレーンは、いわばこれらのスタイルのうち特にビ・バップ以降のジャズを発展させてきた革新者です。

さて、今回紹介をする曲は、コルトレーンが1966年に来日した際の演奏を収録したものです。彼は来日ツアーにあたっては、被爆地である広島・長崎への訪問を望んだそうですが、これは、ベトナムへの北爆の翌年という時期に「あらゆる戦争はすぐにやめるべきだ」と語る彼らしいエピソードでしょう。タイトルが示すように、平和への祈りを込めた曲ですが、30分以上の熱演（この曲を収めたアルバムは6曲で247分！）なので、心して聴きたいものです。

コルトレーンの若き頃の楽曲はテンポも速くスマートな印象をうけますが、彼の音楽人生のなかでも晩年に収録されたこの曲は、嗚咽のようなビブラートや縦横無尽に走り回る旋律に、「激烈」という言葉が思い浮かびます。しかし、激しいなかにもどこか静謐な印象を残すところに、彼の祈りの精神が感じられるでしょう。言葉（歌詞）ではなく、全身で感じ取る気迫に、感動を覚えます。“スピリチュアル”と評価される彼の晩年の楽曲のなかでも、屈指の名演奏として、ここにお勧めしたいと思います。

★編集後記★

5月号の発送が遅れましたことをお詫びいたします。今回の特集は、会員の方にお願したレポートでした。現地に行って実際に見てきたもの、聞いてきたこと、貴重なレポートとなりました。

今後も、さまざまなかたちで会員のみなさまの意見なども掲載していきたいと考えておりますので、ぜひHuRPの会員に伝えたい！というテーマなどがありましたら、HuRPまでメールやファックスをお送りください。(A)

特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP:ハーブ)
Human Rights and Peace Information Center Japan (HuRP)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-17-8 丸十ビル 402号
TEL/FAX 03-6914-0085 e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>